



# GRIEG SOCIETY OF SCOTLAND

GRIEGFORENINGEN I SKOTTLAND

HONORARY PRESIDENT – JOHANNE GRIEG KIPPENBROECK

[WWW.GRIEGSOCIETYSOTLAND.ORG](http://WWW.GRIEGSOCIETYSOTLAND.ORG)

## ARTICLE TEXT IN JAPANESE

FOR THE FULL ARTICLE WITH ILLUSTRATIONS PLEASE VISIT OUR WEBSITE

## Grieg and the spirit of cherry blossom : interview with Fumie Masaki of The Grieg Society of Japan

**Q:** Your Society was established over a quarter century ago, in 1996, and occupies a treasured place in the great ‘Grieg family’ of societies across the world dedicated to the memory of composer Edvard Grieg and his wife, Nina. Can you tell us more about your founder, Mr Ohtsuka, and how he came to have such a strong interest in Nordic music?

日本グリーグ協会は、北欧音楽研究に永年尽力された故大東省三を会長として1996年6月15日（ノルウェーの作曲家グリーグの誕生日）に設立されました。大東省三氏は1926年東京に生まれ、1948年、東京大学経済学部ご卒業後、音楽に深いご関心があり声楽を学ばれ北欧文化協会に入られました。大東氏は1962年に北欧合唱団を創立、北欧合唱団を指揮し1968、1974年に北欧演奏旅行されています。大東氏の執筆本『遙かなる北欧に』では、北欧音楽との出逢い～動機について書かれておりますので、それを基にお答えさせていただきます。私も大東先生から北欧及びグリーグ音楽への傾倒について生前お聞きしております。大東先生が大学にご進学されたころは第二次世界大戦の終戦を迎える期で、先生のご学友も戦地に出向き若い尊い命が犠牲となり人生において忘れ難い辛いご経験をされたこと、大東先生ご自身にも召集令状が届き戦地に出向く寸前で終戦となり生き残ることができたという不思議な体験をしたこと、生き延びた命を真摯に尊ばれ、先生が幼少の頃からご関心を持った『音楽活動』に取り組み日々を大切に過ごされたい願いがあったことを言われております。北欧音楽にご関心を持たれたきっかけは、戦後、大東先生は東京都内のスウェーデン直属の会社に合唱指導に出向かれ、「スウェーデンは歌う」の歌の本に接し、近代工業や能率主義とは無縁のしっとりメランコリーに満ちた民謡は人間の素朴な感覚に訴えかけ、同じゲルマン系民族にもかかわらずドイツとは異なる要素、原語がもたらす風土の特徴と民族の精神的世界観、日本人の感覚に案外合うスウェーデンの歌曲集に触れるたびに北欧音楽への興味は急速に膨らみ、北欧音楽の内側に入って探求したいと思うようになったと述べられています。同書籍では、出逢い（スウェーデンの歌曲）から始まり、ベルゲン紀行（グリーグの音楽）、ダーラナの笛、オスロ、デンマーク、フィンランドとシベリウス、北緯60度、遙かなる北欧に、という項目で大東先生の北欧への想いが述べられています。日本グリーグ協会設立への動機として、1961年秋にロンドンで行われたノルウェーの音楽祭にて、ノルウェー人ピアニストEinar Steen-Nøkleberg氏のピアノ演奏に接して以来、ずっと交流を深めてこられました。Einar Steen-Nøkleberg先生のグリーグの調べに感銘を受け、日本グリーグ協会を設立されたこと伺っています。Einar Steen-Nøkleberg先生は日本グリーグ協会の名誉会長としてご就任されておられます。

**Advancing understanding of the lives, artistic legacies and Scottish connections of composer Edvard Grieg and his wife, singer Nina Grieg. Our mission is to inform and inspire.**

**Q: As Chair of The Grieg Society of Japan, a thriving Tokyo-based organisation with branches in Hokkaido, Tohoku, Hokuriku and Kansai – in other words, the length and breadth of Japan! - you have many responsibilities and exciting musical challenges. Can you tell us more about your role and how the Society and its branches work together?**

日本グリーグ協会は、1996年に設立され、私は1997年に本協会に入会しました。当初は活発に活動されていましたが運営陣が高齢化し2011年まで休止状態に陥っていました。2011年暮れに私と有志3人でrestartを図り会員から年会費を徴収し運営を行っています。入会金と会員種別（演奏家・一般・維持）の年会費は比較的リーズナブルな価格で、誰もが気軽に入会できます。設立当初、正会員はグリーグの作品番号と同じ74名まででしたが、現在は会員人数に制限はなく、Edvard Griegの音楽を愛する方、又は北欧の音楽に興味を持って下さる方ならどなたでも入会できます。現在、会員は85名程度でそんなに大きな組織ではありませんが、やはり会員数の獲得が協会維持に繋がるため、随時会員募集を募っています。役員は本部（東京）会長1名、理事長1名、理事2名、実務委員4名で構成されています。一昨年から、全国規模で運営し地方在住の方々も主体性を持って活動してもらえるよう、北海道支部（北日本）、東北支部（北関東）、関西支部（西日本）に支部長を設置し、各地域でコンサート活動を展開しています。実際に、今年2月25日（日）、関西支部主催コンサートを大阪府で開催します。5月23日（木）、東京本部主催コンサートも東京で開催予定です。演奏家の方々に積極的に協力頂き、グリーグ及びノルウェー音楽、クラシック音楽の普及活動を行っております。

支部設置の狙いとして、地方の会員の方々の参加が難しい状況を改善し、地方の活性化を促す意図があります。そして活動を通じて、地方の方々に日本グリーグ協会の存在を高めつつ会員募集につなげたい方針です。現在の会員の状況はどうしても首都圏エリアに会員が多く、イベント開催も東京中心となり問題視されていました。支部の活動を通じて、支部で会員獲得につながるとより大きな事業も展開出来ますし、本協会の活性化にも大きな影響をもたらします。

今後、北海道支部、東北支部主催のコンサート及びイベントを開催し、日本全国でグリーグの音楽活動を展開し、グリーグ及びノルウェー音楽のすばらしさを訴えていきたいと思っております。特に北海道支部は、ノルウェーやスコットランドと気候が似ていると思われます。冬は大雪が積もり、夏は涼しく、豊かな自然環境に恵まれている地域です。

近年、オンラインで様々なイベントを主催・参加することが可能となりました。直接的に足を運ばなくとも、オンラインで会議を行ったり、マスタークラス、イベントも開催可能です。日本全国に限らず、スコットランド・グリーグ協会はじめ世界各地（時差がありますが）とオンラインイベントができると夢が広がり交流を深め楽しいと思います。日本国内だけでなく、世界は狭しを意識し、皆さんとお友達になれると幸いです。

**Q: I see that from Grieg's famous words 'One must first be a human being. All true art grows out of that which is distinctively human' you have created a very beautiful and inspiring purpose for the Grieg Society of Japan, which is: 'to encourage people to love and deepen their understanding of music while nurturing friendships in pursuit of true joy and happiness in life'. Can you tell us more about the kind of friendships and positive feelings you feel Grieg's music brings your members in Japan?**

グリーグの残した名言「誰でもまず人間であらねばならぬ。すべての真の芸術は人間的なるものから生まれ得る」は、まさにグリーグが音楽に捧げた彼の精神世界であると思われます。要するにグリーグの哲学として、個人のアイデンティティーをお互いが尊重し合い認め合う、そして自分は人と違うことを悟り人間的な価値を見出すことをグリーグは本望としていました。このような深い人間愛・人類愛を音楽で訴えたグリーグの温かい人間性は、ただグリーグの音楽作品が素晴らしいということだけでなく、その内面に浸透したグリーグの豊かな人間性をも日本グリーグ協会は共感し育んでいきたいと思っております。日本グリーグ協会そ

**Advancing understanding of the lives, artistic legacies and Scottish connections of composer Edvard Grieg and his wife, singer Nina Grieg. Our mission is to inform and inspire.**

ここに属する会員は、グリーグの精神哲学を見習い、まず許容範囲を広く持ちお互いの価値を認め合い、理解を深め、友情を育て、生活に真の喜びと幸せを求めることをモットーとし、そしてグリーグ作品の演奏を普及・啓蒙し、研究を続けることを目的と定めています。そして、各々の人間愛を高めることで会自体がグリーグ音楽の神髄に迫れると考えています。

**Q: In northern Europe we yearn for spring as an end to long dark winter nights. Is this the same for you in Japan, do you have a special way of celebrating the season? I'm thinking of Grieg's several songs and piano works on the theme of 'Våren', or spring, and how he loved the re-appearance of the wild cherry blossom in Norway.**

私も2000～2003年頃にかけてノルウェーのオスロに住んでいました。オスロ大学に政府給費生としてグリーグの音楽を勉強させて頂いたのですが、その時北欧で初めて四季の移ろいを経験し、長く暗く寒い冬を乗り越え、ようやく太陽の輝きと共に春の小さな花が蕾を出して雪解け水の流れる音を聞いた時は、生き抜いた感、そして新しい息吹を全身で感じ取り、この先の1年の幕開けを実感しました。生きることの素晴らしさ、大切さを身に染みて感じました。こんなに太陽の光が愛おしいのか、と思いました。私は、西日本で生まれました。私の生まれ育った環境は、比較的暖かい地域で、冬も積雪がめったになく日照時間も夏の頃と比べても急激に変化することはありません。冬も7～17時ごろまで、夏も6～19頃まで日照時間があり、1年を通じて穏やかな気候変動で、冬を乗り切る、といった体力の限界を痛感した経験がありませんでした。しかし、北日本の北海道の地域は、少し異なってくると思います。北海道札幌市在住の方は、ノルウェーのベルゲンに気候が似ている、と言われていました。日本の春といえば、桜の開花から始まります。日本の民謡で、さくらさくら sakura sakura、という曲がありますが、桜のシーズンは日本の春の象徴とされ、昔から日本伝統文化として絵巻物・屏風その他に桜の絵が描かれてきました。日本の春のシーズンは大体3月末から4月初旬にかけて桜が開花する時期にスタートします。この季節になると、桜を見ることを、日本語でお花見、といいます。満開の桜の木の下で食事やアルコールを楽しみパーティーを催します。桜の名所は全国各地にあり、何百本の桜が一斉に開花しその情景は誠に日本情緒を物語り美しく咲き乱れます。この時期は外国人観光客も多く訪れます。スコットランドには桜の木はありますか？ノルウェーにも桜の木があるそうですが、おそらく大分遅い時期に開花するものと思います。日本では、太陽の日照時間に左右されないため、夏至祭も大々的に行われていませんが、神社やお寺では何かお祭りごとがあるかもしれません。

**Q: Can you tell us more about your society's 'performing members' and what activities and repertoire they enjoy? I know that you encourage amateurs and professionals to work together, and as a singer, myself, I am particularly intrigued by your members' dedication to Grieg's vocal music. How does all this work?**

我が協会には演奏家の会員が多くを占めます。演奏家会員の殆どはプロのピアニストです。ただ全てのピアニストがノルウェーに留学及びグリーグの作品に精通した活動しているのではなく、ほとんどは日本国内、他のヨーロッパ諸国及びアメリカ他で勉強したピアニストです。しかし、共通して言えることは演奏家の方々はグリーグの音楽をこよなく愛しています。近年、ノルウェーに留学する人が増えてきましたが、そんなに多いと思えません。声楽家の会員はまだ数名です。その他、弦楽器、管楽器奏者も数名です。グリーグの声楽分野ですが、日本にはグリーグの歌曲をノルウェー語で歌えるプロの声楽家が少ないことは大変残念に思います。歌曲は原語の正確な発語法、そして歌詞の解釈そしてフレーズにおける歌詞の意味合いを理解することで歌唱表現に繋がりますが、日本にはグリーグの歌曲を教えられるプロの声楽家が少ないです。そのため連鎖的にグリーグ歌曲を専門とする声楽家が育たないわけです。それで、日本グリーグ協会はノルウェーの声楽家の方を招聘し、声楽マスタークラスを開催してきました。昨年12月もノルウェー人バス歌手を招聘し声楽マスタークラスを開催しました。日本でグリーグ歌曲を学ぶ方々は、独学でノルウェー語の発語を勉強されています。同じ文法でも歌詞のフレーズがもたらす意味合いは異なってきます。間違った認識でグリーグ歌曲を歌う人も少なくありません。グリーグのピアノ作品演奏解釈の書籍は、国内に幾つかあります

**Advancing understanding of the lives, artistic legacies and Scottish connections of composer Edvard Grieg and his wife, singer Nina Grieg. Our mission is to inform and inspire.**

が、グリーグの歌曲の書籍は日本語訳の書籍がありません。この文献の少なさも声楽家が育たないことの一つの要因にもなります。ここ数年でグリーグの作品を演奏・歌唱する人は多くなってきています。また、ノルウェーの民族楽器も知られるようになり、民族楽器Hardingfeleは日本国内に協会が設立されるほど普及の道を辿っており、ノルウェーでHardingfeleの楽器製作を学んだ人もいます。一方で、グリーグの音楽は「ペール・ギュント組曲」「ピアノ協奏曲」は日本国内でも人気があり、学校の音楽教育教材に取り上げられています。また、「朝の気分」「抒情小品集」から数曲は、日本のテレビCMでもback musicとして取り上げられ、グリーグの音楽は日本人に大変親しまれています。グリーグを知らなくてもグリーグの音楽は知っている人が大多数であると考えられます。日本グリーグ協会は今後地道に活動を重ね、グリーグ音楽の素晴らしさを広めていきたいと思っています。

**Q: I notice that many of the Society's concerts and events are described as being given with 'heart'. Can you explain the meaning of 'Kokoro', which I think translates as 'heart' or 'heart, mind and spirit' and what it means, in Japan, to give a performance or lecture with 'heart'?**

日本人のこころkokoroの根本は愛と和の精神です。日本人の心と日本の文化伝統は、私たちの住む日本の地で2万年に渡って縄文日本人の愛と和の精神によって育まれてきたと考えられます。また、日本人の美意識として「わび・さびWabi・Sabi」という表現が用いられます。この日本の「Wabi・Sabi」の精神哲学は世界に誇れる日本人の文化だとされています。これは世界的にも人気の高い「茶の湯」の精神からとられています。わびWabi・さびSabiは、『侘しさ』と『寂しさ』を表す日本語に、より観念的で美的な意味合いを加えた概念です。さびが表面的な美しさだとすれば、わびは内面的な豊かさ、両者は表裏一体の価値観だからこそ、わびWabi・さびSabiと、よくセットで用いられます。日本人は、奥ゆかしさ謙虚さを大切に、WabiとSabiを持ち得る人間を尊びます。

日本庭園を見てもわかると思いますが、決して派手な佇まいではないが、しかし厳かであり美しい、その感性の豊かさこそ、日本人の和の文化なのです。しかし、現代ではグローバル化が進み日本人の心kokoroと日本の伝統文化が育んだ和の精神が揺らいでいる傾向にもありますが、基本、日本人は「Wabi・Sabi」を尊む国民であると思います。私は自分のレクチャーで、演奏におけるkokoroについて詳細に言及したことはありませんが、演奏のkokoroは、演奏家の主体的な感性を意味していると思います。私もピアノを教えるとき、楽譜に表記されている強弱表現は基より、楽譜に書かれていない表現、これは作曲家の内面性でありこれを感じ取り生き返させることで、作品がより音楽的に息づくかと教えています。それは演奏家のkokoroの在り方であり、kokoroは楽譜の内面に宿ると思います。楽譜からどう感じ取り、それをどのように伝え表現したいか、を明確にすることで独創性が生まれ、kokoroに情感が芽生え豊かな音色となって以心伝心されるのではないのでしょうか。

**Q: Finally, if I may, Fumie, a personal question: What has attracted you, as a pianist, especially to Grieg's music, and, looking ahead, have you any plans for the future you'd like to share with us?**

前の質問の答えに戻りますが、私とグリーグの出逢いは、幼少の頃聴いた「グリーグのピアノ協奏曲」に感銘を受けたことがきっかけでした。特に2楽章の情感豊かな美しい音楽に心を奪われました。私は、大学助手時代の環境からグリーグの音楽を悟りました。研究室から見える風景は自然豊かで、緑豊かな山の景観、近くには海があり漁港がありました。その環境はまだ行ったことのないノルウェーを連想しました。当時は研究テーマを模索していた時期であり、私はこの環境からグリーグの音楽が浮かんできました。グリーグの「ピアノ協奏曲」は有名ですが、私自身、果たしてグリーグはピアノのソロ曲は作曲しているのでしょうか、作品がどんな曲なのか、大変興味が湧いてきました。それで、グリーグの文献を探し研究するうちに、グリーグの音楽様式とノルウェー民族音楽との関連性、そして独特なグリーグの音楽様式を知りました。そして何よりもグリーグが一生を通じて一貫して自身のポリシー、哲学を貫いた、そのグリーグの誠実なお人柄と温かい人間性に私は惹かれました。

スコットランド・グリーグ協会は、グリーグの曾祖父アレクサンダー・グリーグAlexander・Griegの生地であり、Edvard・Griegの家系を語る上においてはその原点ともされる由緒正しい協会であります。そのような

**Advancing understanding of the lives, artistic legacies and Scottish connections of composer Edvard Grieg and his wife, singer Nina Grieg. Our mission is to inform and inspire.**



名門のグリーグ協会と、ヨーロッパから遥か遠い日本グリーグ協会がお近づきになれることは私たち日本グリーグ協会の誇りであります。スコットランド・グリーグ協会と協力してイベントを開催できることは、日本国内のグリーグ研究を推進できる良い機会だと思い、日本国内でグリーグ旋風を巻き起こせるよう努力していきたいと思っています。そして、スコットランドに眠るグリーグの祖先の方々に、遥か彼方の日本でも **Edvard・Grieg** の名前が浸透しファン層が多いことをお伝えさせて頂きたく思います。今後、スコットランド・グリーグ協会の活動を日本グリーグ協会に紹介し、可能性としてオンラインを通じてイベント交流、そして経費を考えながらスコットランドと日本で演奏会交流・レクチャー企画等実施できることを目標に積極的に活動していきたいと思っています。日本に

今後、もし来日の際は、是非予め日本グリーグ協会にご連絡してください。スコットランド・グリーグ協会の皆様が来日された際は、日本グリーグ協会と交流を深める意味において何かイベント考えたいと思います。

今後ともどうぞ宜しくお願い申し上げます。

**Author: Dr Sally LK Garden (Feb 2024)**

[www.griegsocietyScotland.org](http://www.griegsocietyScotland.org)